

2022 年 7 月 14 日

通貨ニュース

フィリピン:BSP、インフレ高進と PHP 安を受け緊急利上げを発表

フィリピン中央銀行(BSP)は 14 日、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の 2.50%から 3.25%へ引き上げた(図表 1)。前回 6 月会合では 50bps の利上げを実施したが、それに次ぐ金融引き締め対応となり、利上げ幅も 75bps に拡大した。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも同じ幅だけ引き上げてそれぞれ 3.75%と 2.75%となっている。

今回決定は予定されていた 8 月の金融政策会合での対応を前倒したものであると思われる。声明文では、インフレ圧力が強まっていることを確認した上での対応としており、内需を中心に回復の兆候が見えているフィリピン経済は今回の金融引き締めにも耐え得ると言及された。

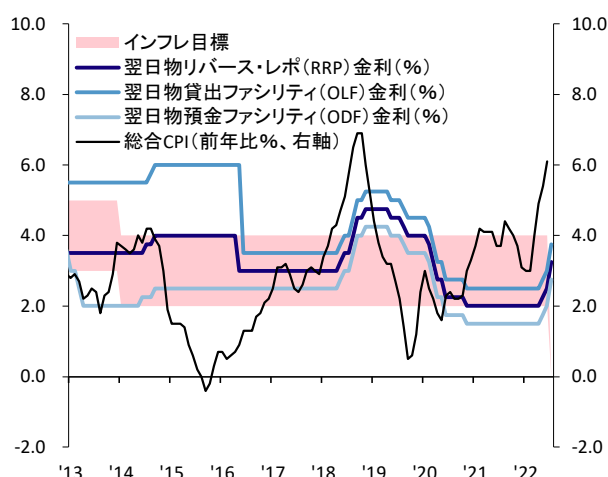
5 日に公表された 6 月 CPI の結果は前年比+6.1%と 5 月の同+5.4%から更に加速した(図表 2)。内訳をみると CPI の構成割合の約 4 割を占める食料品価格やエネルギー価格との関係性の大きい光熱費や輸送費の上昇も継続している。こうした状況下、7 月に就任したメダラ新総裁は上昇が続くインフレとインフレ期待には金融政策の引き締めが求められると判断したと述べ、8 月に濃厚となっていた追加利上げを前倒しで実施したのであろう。加えて、物価安定を目指す上で今後更に必要な行動をとるとも発言し、追加引き締めにも積極的な姿勢を見せた。

また、6 月会合での利上げ実施以降も PHP は対ドルで軟調な推移となっており、7 月に入り史上最安圏を推移している(図表 3)。世界景気減速懸念や資源価格の高止まりといった PHP にとって逆風となる相場環境は変わらず、PHP 安をけん制したい思惑も BSP の胸中にあつたものと推測する。

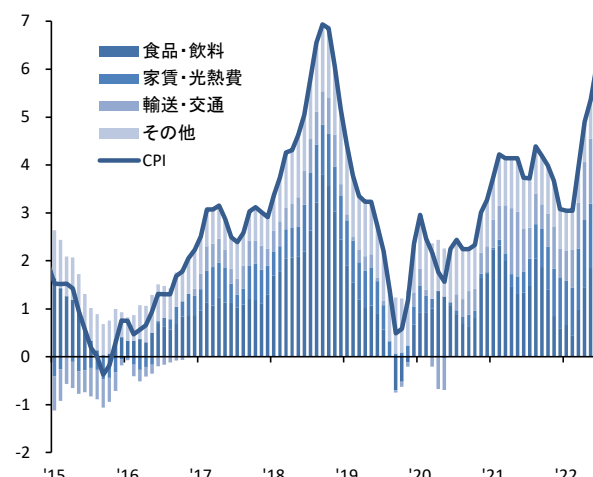
13 日には米国で引き続き高いインフレ率を記録し、市場では 7 月 FOMC にて利上げ幅をこれまでの 75bps から 100bps へと拡大させるといった予想がにわかに強まっている。こうした点が更なるドル高を招いており、今後 FRB 関係者の発言を巡り相場が一段と荒れることも予想される。このほか、ユーロ圏ではロシアのドイツ向けの天然ガス供給停止に関する懸念が熾り、日に日にインフレの進行と域内経済減速の可能性が高まっている。ユーロは対ドルで一時 1.00 を割り込むなど、一段とドル高が進みやすい地合いとなっている。現にドルの強さを示すドルインデックスも約 20 年ぶりの高水準をつけており、この点も PHP のみならず新興国通貨全体の下落要因となっている(図表 4)。

かかる中、本欄では PHP の巻き戻しは景気の本格回復が見込まれる 7~9 月期の後半以降と予想するが、リスクオフの動きに伴う新興国通貨売りの勢いは根強い。PHP においてもその間、断続的に史上最安値を更新する相場動向となることも想定されよう。

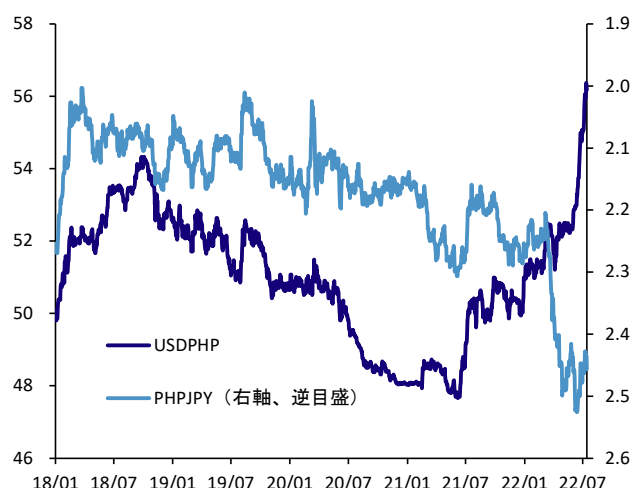
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標


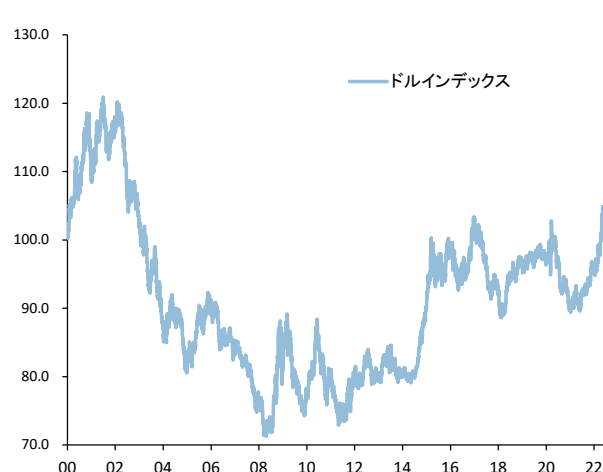
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: PHP の動向


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: ドルインデックスの推移


出所: Bloomberg、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。